

# お地藏さんプロジェクト

～勇気と絆とやすらぎを～

お地藏さんプロジェクト広報誌  
2015年 10月1日発行

## 第7号



穏やかな波をなぞってくる海からの風が気持ちいい秋のある日。あれから4年間、お地藏さんが見てきたまちを知りたくて出かけてきました。

おおよそ片付いたガレキの後、一面の雑草。名も知らぬ雑草なれど風にそよぐ穂先の穏やかな揺れに見入ってしまうと、あの未曾有の災害もうっかり忘れてしまいそうです。

名取市閑上地区。お地藏さんの隣には茶屋を設け訪れる人々をお待ち受けする地域の

「あれっ、井田川の夫婦松が無くなった」。護岸工事で失ったが語り継いでいこうと表示板が残る。津波に勝って残った二本の松をお地藏さんも支えている姿に見えた福島県南相馬市の井田川地区。「家に泊まった友達に波の音で眠れなかったと言ったよ」「私達には何も聞こえないのにね」と故郷を回想する。産湯をつかった時から波打つリズムは呼吸することと同じだった。そしてあの日、被災し、今

は郡山に移り住んで今日はお墓詣りと語る兄弟に会った。おばあちゃんを亡くし、それから：。悲しい事があったのは容易に想像できた。でも笑顔で早口にしゃべる。お地藏さんの眼下で話した偶然の出会い「それでいい、若者は前を向け」と、お地藏さんが力強い目線で後押ししてくれているように感じた。

流された墓石群を守るお地藏さんがあり、復興工事を担う建

設会社の前庭で皆を守るお地藏さんがある。どこにあって、震災で受けた悲しみを受け止めるに留まらず、復興されたまちで新たに歩み出す人々の暮らしを守りながら、悲しみと繁栄を繋ぐ心の語りべとしての役を担ってくれているのかもしれないと思いつつ、帰路について、がんばろう東北！

(文・広報担当 小田嶋豊)  
(写真 遊佐誠氏 仙台市)



ねじりはち巻きをした名取市の童子地藏

## 「お地藏さんは今」

未曾有の災害、そして復興への道のり、お地藏さんが見つけてきたまちを訪ねてみました。今回は宮城県名取市と福島県南相馬市です。

方々がおられました。子供地藏の頭に巻かれたタオルのねじりはち巻き、「閑上漁師にしたのさ」と。すっかり地域の方々の思いを背負ってくれていることを実感しました。目の前の幹線道は工事車両が行き交い、到達した海風もずいぶん砂塵に汚れてしまいうけれど、「俺らが復興すっからな」と静かにがんばる人々の思いを見つめチクチクお顔に当たる海風にもお地藏さんは優しく微笑みます。

## 現地活動報告

### 岩手県 岩泉町 小本地区へ

これまで何度か訪問させていただいた岩泉町小本地区への建立が少しずつ具体的になってきました。街づくりの計画が固まりつつあるところで、その一角に来年にはお地藏さんが人々を見守ってくれることになるでしょう。

どんなお姿のお地藏さんか、どんなお顔のお地藏さんか、小本地区の方々の話し合いを重ね、岩泉町の皆さん、岩泉町を訪れる多くの方々へ愛されるお地藏さんになることを願います。

(岩手・青森担当 木村尚徳)

### 宮城県 岩沼市への建立に向けて

宮城県担当は9月に岩沼市を訪問し、地元住民の方と市役所関係者を交えて話し合いを行いました。復興事業の一環で、現在整備進行中の千年希望の丘(岩沼市HP参照)10号丘地へ、平成28年5月植樹祭後に建立の方向で最終調整を行っています。

また今後の予定としては、気仙沼市と七ヶ浜市に10月に再訪問し、話し合いを行う予定です。

(宮城担当 柴田一夫)

### 山形県 平成27年度総会の開催

8月1日、山形市の霞城センターラ23階会議室にて平成27年度総会が開催され、前年度の事業報告、決算報告、新年度の事業計画が発表されました(詳細は下記「2014年度決算報告書」記載の通りです)。

現在の建立数は7基。各地域の進捗状況については、岩手県は岩泉町、宮城県は岩沼市、福島県はいわき市の建立に向けて活動中です。



### 募金箱設置しています

募金箱を、現在山形市内33カ所に設置しています。昨年から募金額は31万318円でした。

「協力ありがとうございます。ありがとうございます。」



## 寄付金のお願い

銀行口座 楽天銀行 第一営業支店 普通預金 7152474  
口座名 特定非営利活動法人 被災地に届けたいお地藏さんプロジェクト

郵便振替 口座番号 02250-0-118523  
口座名義 被災地に届けたいお地藏さんプロジェクト

## 編集後記

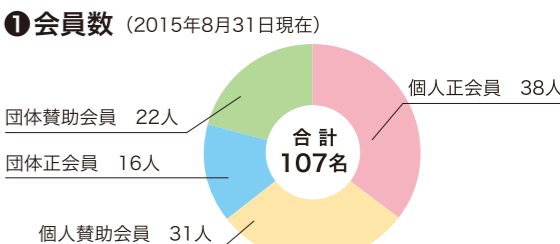
広報誌取材のために南相馬市と名取市を訪れました。南相馬市のお地藏さんの前では、ちょうどお墓参りで近くまで来たというご家族に会いまして、「ふつうに、ここに住んでいたのにね」と、護岸工事が変わっていく街の姿を見てさびしそうにつぶやいた言葉が印象的でした。名取市ではお地藏さん隣のお茶のみ場の方々とお話しすることができました。「手を合わせる場所ができて本当に良かった」と、季節ごとに衣替えをし、きれいに清掃し、大事にされているお地藏さんを見てうれしく思いました。今回の広報誌表紙に使わせていただいた写真もご提供いただきました。ありがとうございます。

認定NPO法人 被災地に届けたい 「お地藏さん」プロジェクト

●発行人/題字: 葦原正憲 ●編集: 長岡高之・菊地宏幸・小田嶋豊

本部 〒990-0042 山形県山形市七日町3-3-5  
TEL: 0120-941-116 FAX: 0120-941-117

## 2014年度決算報告



② 貸借対照表 2015年5月31日現在

資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額(税込)(単位:円)	科目	金額(税込)(単位:円)
流動資産	24,211,716	流動負債	0
固定資産(構築物)	3,331,675	正味財産	27,543,391
資産の部合計	27,543,391	負債・正味財産の部合計	27,543,391

③ 活動計算書 自2014年6月1日 至2015年5月31日

科目	金額(税込)(単位:円)
経常収益	
a 受取会費	1,450,432
b 受取寄付金	11,264,286
c その他収益	23,176
経常収益計	12,737,894
経常費用	
d 事業費	6,560,262
e 管理費	303,470
経常費用計	6,863,732
当期経常増減額	5,873,730
当期正味財産増減額	5,697,530
前期繰越正味財産額	21,845,861
次期繰越正味財産額	27,543,391

合計12,737,894円 経常収益  
合計6,863,732円 経常費用

# 「ゆいちゃんとお地藏さん」

被災地を見守るお地藏さん。お地藏さんは人々の苦しみや悲しみ、祈りや願いをどのように受けとめてくださるのでしょうか。ゆいちゃんも三体的にお地藏さんに手を合わせ願いを託します。

## お地藏さんとの出会い

ゆいちゃんの家族は、お父さんとお母さんとゆいちゃんの三人家族。ゆいちゃんは東京に住む小学五年生の女の子です。お盆を迎え、一家は家族そろってお父さんの実家がある東北に帰省しました。そしてゆいちゃんは、実家のおばあさんの案内で、近くにできたお地藏さんをお参りするところになりました。

翌日おばあさんとゆいちゃん一家の四人は、お父さんの運転する車に乗って出かけました。車は、草の生い茂る広々とした大地を走っています。

「このあたりは津波が押し寄せて、何もかも流されてしまったんだよ。」  
「どうなんだ。」

見渡す限り何もない風景に、ゆいちゃんは悲しい気持ちになりました。車から降りて少し歩くと、二体のお地藏さんが見えてきました。

「ほり、あそこにお地藏さんがあるよ。」  
近づいてみると、真中に高さ一五〇センチくらいのお地藏さんが立ち、その両脇には二体の小さいわらべ地藏が真中のお地藏さんを見上げるように立っていました。

「この小さいお地藏さんとってもかわいい。帽子もかぶっている。」  
頬ずりをしたり撫でまわしたり、ゆいちゃんは小さなわらべ地藏に夢中です。

「うわー、ゆい。そんなにさわってはだめだよ。」お地藏さんとお人形さんごっこをしているかのようなゆいちゃんは、お父さんに叱られてしまいました。すると後の方から声が聞こえました。

## お地藏さんのおもい

「だいじょうぶですよ。お地藏さんは子どもが大好きだから、いつも子どもたちと遊ぶのを楽しみにしているんだよ。」  
その声に皆が振り向くと、そこにはお坊さんの姿がありました。

「お地藏さんは子どもたちを守ってくださる仏さまなんです。」  
「へえーそうなんだ。じゃ私も守ってもらえるのかな。」

「そうだね。震災で亡くなった方も、今生きている私たちも、同じように守ってくださいませ。」  
「私は近くのお寺の住職ですが、今日は東日本大震災で亡くなった方のご供養にまいりました。皆さんもお参りにこられたのですか。」  
「はい、孫がお地藏さんを見たいと申しますのでお伺いしました。」  
「そうですか。」

「おじょうさんのお名前は。」  
お坊さんはゆいちゃんに訊ねました。  
「ゆいちゃん。」  
「はい、ゆいちゃんのお名前ですか。」  
「ねえお坊さん、お地藏さんはどうしてここに立っているんですか。」  
「ゆいちゃん、私たちはね。東日本大震災で亡くなられた方のご供養と、さまざまな場所で困難に立ち向かいながら懸命に生きています。必ずお救いくださることを信じて、皆お地藏さんを心



のよりどころにしているんだ。お地藏さん、ここから見守ってくださいってね。ゆいちゃんもみんなの願いが叶うようにお祈りしてくださいね。」

「はい、もしかしたら私、いつも自分のことしか考えていなかったかもしれない。今ここで被災された方のために、お地藏さんにお祈りしたいです。」

ゆいちゃんは、一日も早く復興できますようにと、お地藏さんに手を合わせお祈りしました。

## 赤いよだれかけ

「お地藏さんって、なんかあったかいな。抱きしめたくなっちゃうの。私ちっちゃいお地藏さんのお顔が好き。でもお地藏さんはなぜ赤いよだれかけをしているのかな。」  
ゆいちゃんの問いかけにお坊さんが答えます。

「お地藏さんは子どもたちが大好きだよ。震災で亡くなってしまった子どもたちは、本当はもっと友達と遊びたかったし、お父さんやお母さんのそばにいたかったのに、誰も知らない世界に立ってしまった。それでもお父さんもお母さんもついていくことはできない。でもお地藏さんは、子どもたちのためにごきまでもついていってくださる。だから心配で心配でしかたのない親に代わって、お地藏さんが守ってくださる。そうして亡くなった子どもたちに私たちの願いが届くように、赤いよだれかけをかけてお祈りするんです。」

「そうなんだ。」  
ゆいちゃんは神秘的な顔つきでお坊さんの話を聞いていました。

## 苦しみや悲しみを代わって受ける

お坊さんの話はさらに続きます。  
「それからお地藏さんにはとっても大事な役目があるんだよ。」  
「だいじな役目ってなんですか。」

「それはね、私たちの苦しみや悲しみをお地藏さんが代わって受けてくださること。お地藏さんは私たちのこの世での苦しみや、亡くなった方が安らかでいられるよう、あらゆる苦しみをすべて引き受けてくださいます。手を合わせることで、私たちの苦しみを受けとめてくださるのをお地藏様です。」  
「そうなんだ。お地藏さんは、私たちの苦しみを受けとめてくれるんですね。」

「ゆい、もう一回お地藏さんをお願いしようか。」  
おばあさんに促されたゆいちゃんはうなずいて、もう一度お地藏さんに手を合わせお祈りしました。

「今日はお地藏さんに会えてよかった。また来るからね、大きいお地藏さんとちっちゃいお地藏さん。」  
お地藏さんもゆいちゃんを見て微笑んでいるかのようです。

(文・菊地宏幸)

## 「おじょうさんはおじょうさん」出版記念チャリティイベント発表会

平成27年8月24日、絵本『おじょうさんはおじょうさん』の出版記念チャリティ発表会が、京都東急ホテルにて開催されました。発表会の呼びかけ人には、裏千家の前家元千玄室氏、人間国宝であり染織家の志村ふくみ氏、京セラの稲盛和夫氏をはじめ、壬生寺の松浦俊海氏、京都府知事の山田啓二氏、京都市長の門川大作氏など、そうそうたる顔ぶれが並び、約300名の参加者を得ての盛大な会となりました。

発表会でははじめに、スクリーンに絵本の映像が流れる中、永田先生ご本人による詩の朗読が行われ、続く京都府知事、京都市長のスピーチでは「今日は折しも地藏盆の縁日。京都に住む人にとってお地藏さんはとても身近な存在であり続けている。世間では痛ましい事件のニュースが続いているが、私達の人生がお地藏さんの優しさに見守られているということをお祈りしたい」と、京都府知事、京都市長、京都市議、京都市議員、京都市職員の皆さんが、お地藏さんへの思いを語り、お地藏さんへの敬意を述べた。またその後の山折哲雄先生と永田萌先生のトークでは、お地藏さんと日本人の関係を山折先生が「自然災害にたびたび見舞われてきた日本人とお地藏さんの関係は深い。日本列島は、実はお地藏さん列島なのだ」と熱く語られたのが印象的でした。

終了後、参加者に絵本が2冊ずつ渡されたのは「冊は自分用、もう一冊は大切な方へのプレゼントに」という思いからとのこと。これを機会に「お地藏さんの輪」が大きく広がることを感じさせてくれました。

この発表会の収入の一部は、認定NPO法人被災地に届けたい「お地藏さん」プロジェクトを通じて被災地に届けられます。



山折先生(右)と挿絵画家の永田萌さん

## 「お地藏さん」の絵をいただきました

石巻市門脇コミュニティとボーイスカウト石巻第6団の方々当プロジェクトを訪れ、お地藏さんの絵を寄贈してくださいました。

絵を描かれたのは石巻市にお住いの五十嵐麻依さん。モデルは当プロジェクトが第1号として建立した石巻市の「きずな地藏」です。お地藏さんの足元にはきれいな白百合が供えられ、復興を願うあたたかい気持ちが伝わってくる素敵な絵です。

関係者の温かいご厚意に御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

